



公益財団法人 日本国際フォーラム

団体概要

令和6年4月

プロローグ

ロシアのウクライナ侵略、中国の台頭 台湾情勢 米中対立、経済安全保障 気候変動 感染症 サイバー戦争…

今日の国際社会は、このような既存の国際秩序を脅かす各種のリスクが地域を問わず顕在化しつつあるなか、近年まれにみる大きな構造転換期にさしかかっています。そのなかで日本としては、これまで以上に、国際秩序形成に積極的にかかわることを求められています。

残念ながら、現在の日本には、そうした「**世界の中の日本**」のトータルな将来像について**戦略的に構想し、具体的な政策へと結びつけることのできるシンクタンク**がほとんどありません。

私ども日本国際フォーラムは、そうした数少ない外交・国際問題に関するシンクタンクの一つです。以下でご案内するとおり、日本国際フォーラムは、世界各国・各地域のシンクタンク などから「**今後の世界を考える上で欠かすことのできないパートナー**」として、そのさらなる発展と積極的な活動を求められています。

日本国際フォーラムは、外交・国際問題等について、民間・非営利・超党派の立場から調査研究・提言を行っている政策志向のシンクタンクとして、海外のシンクタンクとの共同研究、交流、対話を通じて、世界の平和と繁栄に寄与する日本外交の一翼を担ってまいり所存です。

ごあいさつ

日本国際フォーラムにご参加いただくということ。



それは日本国際フォーラムを通じて、会員のみならずみなさまお一人おひとりが、激動する国際社会の真の原動力となっている情報やパワーと直結することに他なりません。日本国際フォーラムは、世界各国の主要シンクタンクや政府機関そして官民の諸団体・個人との双方向の緊密な協力体制を確立しています。そうしたネットワークを通じて、マスメディアやインターネットでは手に入らない世界の最新情報が、日本国際フォーラムには日々、届けられています。また、日本はもとより世界各国の **Policy Circles**（各国の政策決定に直接影響力をもつパワーエリートのグループ）との日常的な対話は、**CNN** あるいは **BBC** に映しだされる世界の出来事を、よりいっそう身近なものとしてくれます。

なぜ、日本国際フォーラムは「研究所」ではなく「フォーラム」なのでしょう。それは日本国際フォーラムが、学者・研究者だけの集まりではなく、経済界、政界、官界など各界第一線でご活躍のみなさまにも開かれた市民社会のシンクタンクだからです。各界のオピニオンリーダーが一堂に会し、共通の言葉で議論をし、その成果を国内外の政府や世論に訴え、日本そして国際社会全体を動かしてゆく、という営みは、日本国際フォーラムのもつ大きな特徴の一つです。

日本の各界を支えるみなさま方には、ぜひとも日本国際フォーラムにご参加いただきたいと思えます。そして、日本国際フォーラムがグローバルに展開している人・組織・情報のネットワークを、みなさまのさらなるご発展のために、ぜひご活用ください。みなさまと共に、日本そして国際社会全体を動かしていけることを楽しみにいたしております。

代表理事・理事長

渡辺 まゆ

日本国際フォーラムができること

日本国際フォーラムは、わが国では数少ない、民間・非営利・超党派の外交・国際問題に関する政策シンクタンクです。1987年3月に設立され、今年で35周年を迎えました。わが国の対外関係のあり方および国際社会の直面する諸問題の解決策について、調査、研究、提言を行い、もってわが国および国際社会の平和と繁栄に寄与することを目的としています。

当フォーラムが展開しているさまざまな活動に共通しているのは、これからの日本そして国際社会のあるべき姿について、オールジャパンで考えていこうとする成熟した市民の主体性を最大限尊重する姿勢です。

ただし、そうした市民主体の外交論議が、真に的を射た成熟したものとなり、かつ一定の影響力を持つためには、次の三つの要素が何より必要となります。

1. マスメディアでは知りえない **In-depth** な情報
2. 政策サークルに直結する強固な人脈
3. 洗練された国際感覚

当フォーラムは、みなさまにそうした情報、人脈、国際感覚を「自家薬籠中のもの」としていただき、さらなるご発展のお手伝いをさせていただきたいと考えています。

以下では、日本国際フォーラムが実施している主な活動についてご紹介致します。

IN THE LOOP の世界へ

IN THE LOOP とは

英語で「最新の情報を得ることができる限られた人の中に入っていること」を意味します。日本国際フォーラムは、日本の内外で、さまざまな規模の勉強会、セミナー、国際会議などを常時開催しており、国際社会の最新情勢について、常に **IN THE LOOP** の状態を維持しています。わたくしどもは、法人正会員のみなさまを、ぜひこの **IN THE LOOP** の世界にお招きしたいと思います。



講師に迎えた、安倍晋三元首相。閣僚クラスの講師もめずらしくはない。

国際政経懇話会 日本の**LOOP**へ

国際政経懇話会」は、毎月1回の定例で、国際情勢の機微に精通した実務家や研究者を講師にお招きして開催しているインフォーマルかつコンフィデンシャルな勉強会です。

この勉強会は、マスメディアやインターネットでは知りえない、国際情報の表裏について、斯界の権威の生の声を通じて情報収集できる貴重な機会として好評をいただいております。

少人数限定のゼミナール形式で開催しておりますので、講師の方との質疑応答はもちろんのこと、会合前後での名刺交換や立ち話など、アットホームな雰囲気の中でのネットワークづくりも魅力の一つです。（**現在コロナ禍によりオンライン形式で開催**）

主な講師とテーマ

講師：北村 滋 前国家安全保障局長 テーマ：経済安全保障とは何か？

講師：落合 陽一 メディアアーティスト テーマ：計算機自然と持続可能性

講師：御厨 貴 東京大学名誉教授 テーマ：安倍政権は政治をどう変えたか：歴史的考察

講師：松原 仁 東京大学教授 テーマ：人間は進歩した人工知能とどう付き合っていくべきか

講師：鈴木 一人 北海道大学教授 テーマ：世界の宇宙開発の動向と日本の課題

講師：兼原 信克 前国家安全保障局次長・JFIR上席研究員 テーマ：21世紀日本の大戦略

講師：岡本 薫明 財務事務次官 テーマ：日本の財政の現状と課題

IN THE LOOP の世界へ



講師に迎えた、世界的戦略家のエドワード・ルトワック氏。翻訳書も多数あり（上画像参照）。

外交円卓懇談会 世界のLOOPへ

「外交円卓懇談会」は、毎月1回の定例で、政治・経済・文化・社会等さまざまな分野で世界的に活躍する専門家の来日の機会をとらえて開催しているインフォーマルかつコンフィデンシャルな勉強会です。この勉強会は、世界各国・各地域の国際情勢等に直接関与し、あるいは影響力を持つ有力者の生の声を通じて、その舞台裏についてオフレコの情報収集できる貴重な機会として好評をいただいております。

「国際政経懇話会」同様、少人数限定のゼミナール形式で開催しておりますので、講師の方との質疑応答はもちろんのこと、会合前後での名刺交換や立ち話など、アットホームな雰囲気の中でのネットワークづくりも魅力の一つです。なお、使用言語は、原則として英語となります。

（現在コロナ禍によりオンライン形式で開催）

最近の主な講師とテーマ

講師：張林峰 ZTEコーポレーション副社長 「5G時代は国際社会に何をもたらすのか」

講師：ダグラス・パール カーネギー国際平和財団研究員 「バイデン・習近平新時代の台湾」

講師：ニコラス・セーチェニ 米CSIS日本部副部長 「2020年米国の選択とインド太平洋の未来」

講師：バシール・モハバット 前駐日アフガニスタン大使 「アフガニスタンはどこに向かうのか」

講師：マイケル・チェイス ランド研究所上級研究員 「中国の戦略的抑止と軍備管理」

講師：ケント・カルダー ジョンズ・ホプキンス大学副学長 「ワシントンの中のアジア」

世界の深層

「世界の深層」は、世界の要人の生の声を通じて国際社会のメガトレンドを捉えることを狙いとする、研究会（特別講演会）です。



これまでパネリストとして参加した主な世界の要人

- ユーリア・ティモシェンコ 元ウクライナ首相
- スティーヴン・ハーパー 前カナダ首相
- エンダ・ケニー 前アイルランド首相
- クリス・グレイリング 前英国大法官
- トニー・アボット 元オーストラリア首相



講演するトニー・アボット元オーストラリア首相（上画像参照）。

2022年7月には、「ウクライナ戦争と今後の世界を語る」を総合テーマとし、「ロシア・ウクライナ戦争：新たな政治経済パラダイムを求めて」「自国主義と多国間主義」の2つのパネルからウクライナ戦争の深層に迫った。当日は、ウクライナからユーリア・ティモシェンコ元ウクライナ首相、フリゴリー・ネミア・ウクライナ元副首相、スティーブン・ハーパー元カナダ首相等が参加した。

パネル討論では、「ウクライナ戦争は内戦ではなく国際的な戦争だ」「ウクライナの最前線での勝利には団結、経済制裁、武器が必要だ」「被害国への補償が徹底される法整備が急務だ」「国連は安保理を含め負の面ばかりが強調されるが、UNHCRやWHOといった、日々何十億人を支援している存在を忘れてはならない」「一部諸国から国連に代わる新たな機関創設の提案もあるが、既存の制度が崩壊する恐れもあり、今こそ改革を進めるリーダーシップが必要ではないか」等の意見が出された。

エピステミック・コミュニティへようこそ



日米豪仏から稀代の専門家が結集した「世界との対話：地経学から見えてくる世界」

エピステミック・コミュニティ (epistemic community) とは

「地球的規模の諸問題に対応する国境を超えた専門家集団、あるいはそのネットワーク」を意味します。日本国際フォーラムは、そうした国際的なエピステミック・コミュニティの中核に位置しており、世界各国の専門家やオピニオンリーダーとの交流を深めつつ、世界の諸問題の解決に取り組んでいます。わたくしどもは、法人正会員のみなさまを、この「エピステミック・コミュニティ」へのご案内いたします。

エピステミック・コミュニティ&先進的専門家とつながる

刻一刻と変化する国際情勢。その個々の事象に隠された本質を理解し、適切な対応を行うためには、世界のさまざまな国や地域が持つ「パースペクティブ（視角）」を理解することが不可欠です。そのため、日本国際フォーラムは、その時々最重要のテーマについて、「問題の本質」を探るべく、日本および世界の専門家をパネリストにお招きし、大小さまざまな規模の「国際対話」を随時開催しています。

世界の「エピステミック・コミュニティ」では、何が問題とされ、何が議論されているのか、それを理解した先に見えてくる世界は、メディアなどを通じてみる世界とはずいぶんと違ったものとなるはずです。

シンクタンク・ネットワーク



日本国際フォーラムは、世界各国の有カシンクタンクとの緊密な協力体制を確立しています。国内外の専門家等に、調査研究や親睦交流のための海外出張あるいは使節団の派遣・招聘の機会を提供、助成し、各般の外交・国際問題に関する国際的な知的交流を促す。かかる活動の実施に向けて、当フォーラムが日常的にコンタクトしている海外のシンクタンク等はつぎのとおり。

北米

【米国】CSIS、アメリカン・エンタープライズ研究所、カーネギー財団、米国防大学国家戦略研究所、全米外交政策委員会、先端政策研究所、外交問題評議会、ユーラシア・グループ、ブルッキングス研究所、ピーターソン国際経済研究所他

【カナダ】サイモン・フレイザー大学

【ご参考】バイデン政権入りした米国の共同研究メンバー

リンジー・フォード (Lindsey Ford)
前ブルッキングス研究所フェロー
→国防次官補代理 (東南アジア担当)



マイケル・S・チェイス (Michael S. Chase)
前ランド研究所上級政治学者
→国防次官補代理 (中国担当)



ミラ・ラップ・フーパー (Mira Rapp-Hooper)
前外交問題評議会 (CFR) 上級研究員
→国務省政策企画本部 (Policy Planning Staff)
中国に関するシニア・アドバイザー



インド・アジア・太平洋



ヤンゴンにてASEANのシンクタンクとのネットワーク会合



日中韓三国のシンクタンクのネットワーク会合

【日中韓】日中韓三国協力事務局

【韓国】韓国東南アジア研究所、韓国国家外交学院、アサン政策研究所等

【中国】中国国際友好連絡会、中国社会科学院、中国外交学院、中国現代国際関係研究院、中国国際問題研究院、北京大学国際関係学院、上海国際問題研究所、上海外国語大学、復旦大学国際関係公共事務学院、上海時代経済発展研究院上海海洋フォーラム、浙江大学公共管理学院、中国海洋大学日本研究所、台湾中央研究院歐美研究所、台湾国立政治大学現代日本研究センター等

【ASEAN】ASEAN戦略国際問題研究所連合、ASEAN事務局、インドネシア戦略国際問題研究所、インドネシア国立大学国際関係学部、シンガポール国際問題研究所、シンガポール国立大学東アジア研究所、南洋理工大学ラジャラトナム国際関係研究院、タイ戦略国際問題研究所、ASEAN大学連合、マレーシア戦略国際問題研究所、フィリピン開発研究所、ブルネイ政策戦略研究所、カンボジア平和協力研究所、ベトナム外交学院、ベトナム社会科学院、ミャンマー戦略国際問題研究所、ラオス国際問題研究所等

【中央アジア】キルギス国立戦略調査研究所、タジキスタン国家戦略研究所

【インド】オブザーバー・リサーチ財団、インド防衛研究所、インド応用経済研究所等

【オーストラリア】オーストラリア戦略政策研究所、オーストラリア国立大学国家安全保障学部等

欧州・ロシア・コーカサス等

【西欧】 欧州外交問題評議会、英王立統合軍防衛研究所、英王立国際問題研究所、英国国際戦略研究所、独国際安全保障研究所、仏国際関係戦略研究所、仏国際関係研究院、仏戦略研究財団（FRS）、蘭クリンゲンドール国際関係研究所、ブリュッセル自由大学欧州研究所、スペイン王立エルカノ財団、EU欧州安全保障研究所、EUアジアセンター、EU欧州政策研究所、フランス国立東洋学大学、フューチャーマップ、ドイツ文化外交研究所等

【北欧】 ストックホルム国際平和研究所、ノルウェー国際問題研究所、ノルウェー・ノーベル研究所、オスロ国際平和研究所、ヘルシンキ大学アレクサンテリ研究所

【東欧】 ルーマニア国立政治公共政策大学、ポーランド国際問題研究所、ウクライナ外交アカデミー、ウクライナ経済政治研究センター、ウクライナ・ロシア研究センター

【ロシア】 モスクワ大学国際関係学部、世界経済国際関係研究所、国立研究大学高等経済学院

【黒海地域】 黒海経済協力機構、民主主義と経済発展のための機構



EU欧州政策研究所ラノーカレル理事長と懇談する日本国際フォーラム渡辺まゆ理事長(2019年)



『接続性の地政学』の著者のバラグ・カンナFutureMap創設者によるセミナーの様相（2021年）

東アジアのシンクタンクネットワーク活動



北京での EAF 総会のもよう (2017 年)



バンコクでの NEAT 総会のもよう (2016 年)



釜山での NTCT 総会のもよう (2016 年)

格別の権威を有するのが、各国政府が公認する国際シンクタンク・ネットワークの活動があります。

日本国際フォーラムは、とくに東アジアにおけるネットワーク形成に力を注いでおりますが、現在、日本の窓口として参加しているものとしては、「東アジア研究所連合 (NEAT)」、「東アジア・フォーラム (EAF)」、「日中韓三国協力研究所連合 (NTCT)」などがあります。

これらのネットワークにおいて、日本国際フォーラムは日本国政府からその「日本代表機関」に指定されており、東アジア共通の政策的課題について、他国のシンクタンクとの共同研究を実施し、その成果を、各国政府や首脳会議等に対し提言しています。

このような国際シンクタンク・ネットワークに毎年結集する東アジア 13 国の精鋭たちは、日常的にも緊密な交流関係を維持しており、その強固な結束力を指して「シンクタンク・マフィア」と俗称する人もいるくらいです。こうした結束力の中で、東アジア共通の政策課題が議論され、また具体的な政策へとつながっているといえます。

世界へのDEEP DIVE

DEEP DIVEとは

英語で「深く掘り下げて調べること」を意味します。米国のCIA、国防総省などで日常的に用いられているフレーズです。日本国際フォーラムは、日々移り変わる国際情勢について、その表層を捉えるだけでなく、その舞台裏、キープレイヤーの思惑、そしてその背景に横たわる国際社会のメガトレンドにまで踏み込んだ分析を通じて、「問題の本質」を明らかにしつつ、日本の戦略的対応を考えています。法人会員のみならず、この「世界へのDEEP DIVE」の醍醐味を味わっていただきたいと思っております。

日本国際フォーラムは、国際社会の最新の問題状況を的確に把握するために、時局の最先端テーマに関する各種の調査研究プロジェクトを実施しています。その最大の特徴は、複数の専門家を結集して行う共同研究です。共同研究は、個人研究とはちがひ、研究メンバーの各専門性を活かしつつ、メンバー間での徹底した討論やブレインストーミングを通じて、より高次のパースペクティブ（視角）を導き出すことができます。



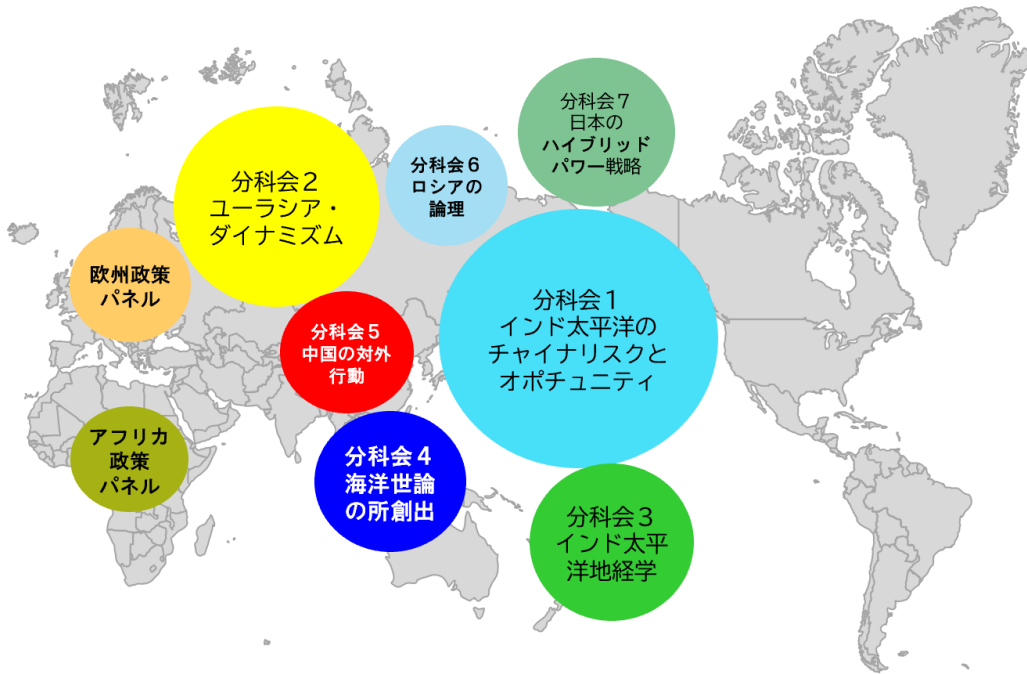
「多元的グローバリズム」時代の世界と日本を考える

今日の世界では、既存の国際秩序の基調たる「リベラル・グローバリズム」が、中国等の新興国が推進する「非リベラル・グローバリズム」の挑戦を受けるようになり、さらには従来からある気候変動や感染症等の「グローバル・イシュー」に加え、AI・サイバーなどの未踏の「テクノ・グローバリズム」が、人類社会を根底から変容させつつある。かくして、21世紀世界は「多元的グローバリズム時代」というべき時代に突入したといえる。日本をはじめとする先進国は、自らが掲げる普遍的価値を引き続き遵守しつつ、新興国の生み出す経済的ダイナミズムをいかに効果的に包摂するべきか、という世界史的次元の課題に直面している。

このような問題意識のもと、当フォーラムは、2020-2023年においては、**大型研究プロジェクト「『多元的グローバリズム』時代の世界の多極化と日本の総合外交戦略」**を実施した。本プロジェクトでは、新旧さまざまな「グローバリズム」が相互に多元的な影響を及ぼすなかで日本の目指すべき総合外交戦略を提言すべく、**次ページに記載の7つの研究会と2つの政策パネル**を発足させた。また、本研究プロジェクトと同時に、若手オピニオン・リーダー育成のための「**JFIRライジングスタープログラム**」（JFIR Rising Star Program: JRSP）も始動させた。最新の活動について、ホームページをご参照ありたい。

「多元的グローバリズム時代の世界の多極化と日本の総合外交戦略 研究プロジェクト2020-2023

複層的な世界潮流を踏まえた
日本の外交戦略を構想・提言する



▶国際秩序の変容を読み解き日本外交をデザインする

- ①既存のリベラル国際秩序を維持するための戦略構想「インド太平洋のチャイナ・リスクとチャイナ・オポチュニティ（日米合同研究）」
- ②地政学的観点からバランスーとしての日本外交の役割を追求する「ユーラシア・ダイナミズムと日本外交」
- ③FOIPの現実化を地経学的観点から構想する「米中覇権競争とインド太平洋地経学」
- ④海洋秩序維持の協力を模索する「海洋世論の創出～海洋秩序構築の多面的展開～」

▶主要アクターの行動原理や最新動向を理解し、日本の外交戦略の実効性を高める

- ①中国とロシアの行動原理を分析・理解する「中国の対外行動分析枠組みの構築」および「ロシアの論理と日本の対露戦略」
- ②欧州・アフリカの最新動向を把握し、日本との協力を模索する「欧州政策パネル／アフリカ政策パネル」
- ③国内・国際情勢全般の最新動向を把握する合同ヒアリング

▶日本の潜在的国力を最大化し、国際プレゼンスを高める方法を探求する

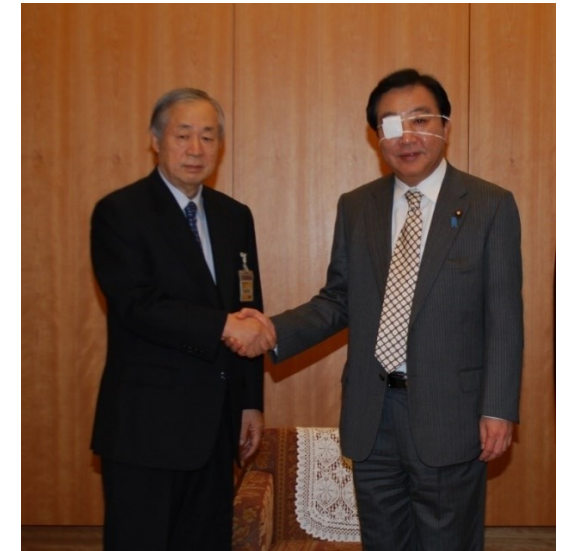
「日本のハイブリッドパワー戦略」

政策提言

日本国際フォーラムは、設立以来、その活動の中核を成す「政策委員会による政策提言活動」において、特定の政策テーマについて研究、審議し、最終的に「政策提言」として日本国内外へ向けて発表してきました。これまでに、米国、中国、欧州、ロシア、インドとの関係の在り方、東アジアにおける安全保障や経済統合、国際エネルギー安全保障、人間の安全保障、地域秩序の在り方等をテーマに37の「政策提言」を発表しています。特に、2014年8月5日に「第37政策提言『積極的平和主義と日本の針路』」を安倍晋三総理大臣に手交し、同日、記者発表を行いました。



第37提言を安倍首相に手交する伊藤理事長（2014年8月5日）



第35提言を野田首相に手交する伊藤理事長

役員名簿 【理事】



代表理事・理事長
渡邊 まゆ
常勤



副理事長
神谷 万丈
防衛大学校教授



理事・研究主幹
伊藤 和歌子
常勤



理事・総務主幹
菊池 誉名
常勤



業務執行理事・常務理事
高畑 洋平
上席研究員（常勤）



理事
伊藤 剛
明治大学教授



河合 正弘
環日本海経済研究所代表理事所長



理事
半田 晴久
世界開発協力機構総裁



理事
渡邊 啓貴
帝京大学教授

【監事】



坂井 一臣
双日総合研究所社長



渡部 賢一
TMI総合法律事務所顧問



有馬 龍夫
元日本国政府代表



兼原 信克
元国家安全保障局次長

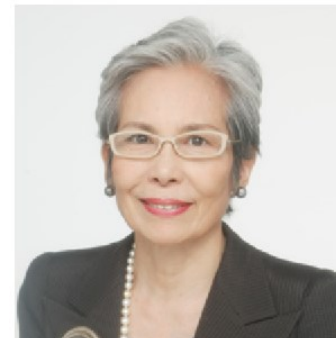
【評議員】



石川 洋
鹿島建設取締役副社長



城内 実
衆議院議員



大宅 映子
評論家



畔柳 信雄
三菱東京UFJ銀行名誉顧問

【評議員】



坂本 正弘
日本国際フォーラム上席研究員



杉村 美紀
上智大学教授



鈴木 馨祐
衆議院議員



高原 明生
東京大学教授



寺口 智之
野村ホールディングス副会長



袴田 茂樹
安全保障問題研究会会長／青山学院大学名誉教授



渡辺 利夫
拓殖大学学事顧問

【顧問】

石井 直	電通顧問
板垣 靖士	三菱UFJ銀行副頭取執行役員
北村 雅良	電源開発特別顧問
清水 希茂	中国電力代表取締役社長執行役員
竹中 統一	竹中工務店名誉会長
中村 公一	山九会長
宮崎 俊彦	たちばな出版代表取締役
茂木 友三郎	キッコーマン取締役名誉会長・取締役会議長

【参与】

最高参与



田中 明彦

政策研究大学院大学学長

参与

青木 保	青山学院大学特任教授
浅尾 慶一郎	衆議院議員
飯田 敬輔	東京大学大学院教授
池尾 愛子	早稲田大学教授
折田 正樹	元駐英大使
加茂 具樹	慶應義塾大学教授
木下 博生	全国中小企業情報化促進センター参与
斎藤 直樹	山梨県立大学名誉教授
高橋 俊樹	国際貿易投資研究所研究主幹
寺田 貴	同志社大学教授
田原 総一郎	評論家
永野 慎一郎	大東文化大学名誉教授
中西 寛	京都大学大学院教授
羽場 久美子	神奈川大学教授
原 聰	京都外国語大学客員教授
吹浦 忠正	ユーラシア21研究所理事長
船田 元	衆議院議員（自由民主党）
宮家 邦彦	外交政策研究所代表



公益財団法人日本国際フォーラム

〒107-0052

東京都港区赤坂2-17-12-1301

[Tel] 03-3584-2190 [E-mail] jfir@jfir.or.jp

[URL] <http://www.jfir.or.jp>